



題字・天野貞祐

第 71 号

平成20年12月10日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03(3946)6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 鈴木 莊太郎

----- 主な内容 -----

母校が変われば、同窓会懇親会も変わる?...谷口有三...	(1)
獨協時代().....田中建吾...	(3)
平成3年卒長瀬直矢さん「筑摩書房太宰治賞受賞」.....	(4)
気がつけば57年...感謝!!.....赤堀光男...	(5)
同窓会、獨協祭に参加、そして.....櫻田可人...	(6)
栃木の地で在宅ホスピス.....渡辺邦彦...	(8)
昭和28年卒橋本幸雄さん	
「上野国世良田長楽寺改宗と天海」を上梓.....	(9)
クラス会だより.....	(10)
私の近況.....	(12)
神田直人先生を悼む.....中村昭美...	(16)
編集後記.....	(16)

母校が変われば、同窓会懇親会も変わる？

平成20年度総会・懇親会盛大に開催



鈴木莊太郎会長の開会の辞

6月21日(土)午後5時より、本年度の総会(議案および承認可決事項は後述)が母校小講堂にて、続く午後6時半より、懇親会が椿山荘の4階宴会場、ジュピターの間で昨年より36名多い149名を迎えて賑やかに催されました。

同窓会副幹事長を拝命し、ここ数年運営に携わっている者として今年の懇親会を振り返って感じたことを記してみたいと思います。

懐かしい先生や旧友との再会、この総会を利用してOB会結成を進めるサークルや、クラスの垣根を越えた同期会作りなど、あちらこちらで楽しい話で盛り上がる光景、そしてOB村田蔵六さん率いる無量塔バンドによる校歌演奏によるパーティーの最高潮は、毎年繰り返される不変の良き雰囲気ですが、その中にありながら嬉しい変化を今年いくつか感じ取ることが出来ました。個人的に3点

挙げたいと思います。一つ目は、卒業1～2年

の若人の参加が増えていることです。社会の第一線で活躍する昭和50年以降、特に平成世代の参加が著しく少ないだけに、二十歳前後の彼らの出席は会場を華やかにするだけでなく、同窓会活動の活性化、時代に合ったプログラム作りに不可欠です。来年以降も彼らに参加して頂くためには、“6月第3土曜日は獨協同窓会総会、懇親会の日”の徹底した今まで以上のPRと、多くの担任の先生の出席を母校にお願いすることでしょう。二ツ目は、永井校長先生の母校の発展のために1年間取り組まれた改革プログラムとその推進結果のご報告は、極めて具体的な成果となって卒業生が認識できるものだけに、“後輩達のために我々も応援しよう”という“いつまでも我らの獨協”という認識が参加者の間に高まっていることが確認できました。三ツ目は、獨協とドイツとの新しい関わりです。母校からドイツ語必修クラスが消滅して以来、現代ドイツとの関わりが少なくなりましたが、学校ビジョンに環境教育を取り込んでいることに、来賓の在日ドイツ文化センター ユルゲン・レンツコ氏は環境先進国ドイツを代表し、獨協学園と子供たちの環境意識を地球の将来のために高めることで、情報、ノウハウの交換をしていきたいと急遽スピーチされたほどで、新時代の獨協を感じさせる一幕でした。

このように、何年も変わらぬ同窓会総会、懇親会のような、良い伝統行事の中にも着実に未来志向の変化を見ることが出来ます。今、多くの私立学校が少子化から厳しい状況に立たされています。しかし、獨協は長い歴史に終止符を打つことなく、創立150年、いや200年に向け前進しています。母校のその躍進ぶりをご覧頂くために、多くの同窓会会員が来年6月、総会・懇親会の参加者になって下さるものと確信しています。

獨協同窓会副幹事長 昭和53年卒 谷口 有三



本年度総会について

6月21日(土)午後5時より、本年度の総会が母校小講堂にて開催され、鈴木同窓会会長による進行のもと、はじめに前年度の事業および収支決算報告が行われ、収支差額金については全額積立金に繰入れする処分案が承認可決されました。本年度の事業計画および収支予算案に関する議案の承認可決された以外に、可決された議案は下記のとおり。

出席会員数：1364名（委任状提出による代理出席1330名を含む）

議長：鈴木同窓会会長が就任

出席会員数を以下の通り報告。出席会員数34名、委任状による代理出席数1330名。委任状による議決権行使の受任者は、1258名は会長もしくは議長名の記名につき議長へ、無記名は72名と発表された。

附議事項：

第1号議案

平成19年度事業報告および平成19年度収支決算報告の件

第2号議案

平成19年度収支差額金処分案承認の件、監査報告第3号議案

平成20年度事業計画および平成20年度収支予算案承認の件

なお、平成20年度事業として獨協学園文化祭にあたり同窓会活動を紹介するコーナー（1部屋）を設けることとし、実行委員会を組織し櫻田常任幹事が委員長に就任いたしました。

文化祭における同窓会コーナーの模様については本通信6ページをご覧ください。



「獨協時代」(・)

昭和18年卒 田中 建吾

先日同窓会の総会があったが、神田川に沿った江戸川公園も綺麗になったもんだ。校舎も戦後になって二回目の改築で昔の面影は全くなくスマートで各階に通ずるエレベーター等吃驚するばかりである。会場の途中で吹奏楽の練習をしている生徒に場所を尋ねると実に礼儀正しく案内をしてくれた。誠に恐れ入った次第である。帰宅して本棚を探したら入学時の古い写真が出てきた。皆新生らしく神秘的な顔をして懐かしいというよりは吹き出してしまった。あの日から「みどり」は深し、を何回歌った事か。「ロールベエールの花の枝」という個所が無性に新鮮に感じた事を憶い出した。なにしろ昭和13年、これから長い戦争が始まろうとしている時の事、修学旅行一泊が銃を担いで箱根山行軍という戦時色の濃い時代であったが、それでも結構楽しく青春を満喫し得たのは若さの故かも知れない。



通学の途は学校の前にある目白に通ずる大きな坂を通らず椿山荘に近い細い坂を利用した。元々この坂が昔から在って目白坂と言われていたそうである。学校への進行方向に向って右側に八幡神社が在り一息ついたものであった。学校の帰りは関口台町小学校の脇をすり抜けて江戸川公園に入って一頻り時間をつぶした。学業とは関係の無い物をカバンから出して見せ合ったり、どこそこの中学には強い不良がいるから気をつけろとか女学校の運動会が何日にある等と下らない話に夢中であった。少なくとも学問の話など全くなかった。木造ではあったが校舎の玄関は重々しく生徒は当然出入りは許されなかった。



その二階は講堂でそこから玄関のポーチまで出る事が出来た。当時、弁論部というのがあって小生はそこに入部すればポーチで演説が出来ると思って入部したが、その様な事はなくがっかりした。癪にさわって講堂でたがた音をたててやろうと、家が近かったので放課後、下駄を履いてマントを羽織り学校へ行ってみた。ガランとした校舎に下駄の音が快く響いた。誰にも気づかれなかったが突然「おい」と一喝された。最上級と思われる先輩である。猫に掴まった鼠の如き小生は裏の荒れ放題の小山の様な場所に連れ出された。現在運動場で地下は体育館になっている所である。

先輩は叢を掻き分け中にしばらく入ると丁度崖の様な場所に出た。これは殴られるなど覚悟を決めていると「おい、前方にあるのが小石川高等女学校だ。あれに向って小便をしよう」ととんでもない事を言う。先輩は堂々と放尿におよび小生も恐々それに従った。「お前はやり方が不味い。親指を下にして人指し指で持って、残りの三本はあたりにちらかぬ様に覆うのだ」。有り難いもので男の放尿のマナーを教えてくれた。その後先輩は煙草を取り出し、煙が消える様にそのマントで扇いでおれと命じた。先輩が吸い終るまで冬の寒い日に汗をかいてしまったが

幸い殴られなかった。「お前は面白い奴だな。これからは下駄を履いて来るなよ」と無罪放免して貰った。この先輩はこんな事があって折々小生の面倒を見てくれた。田村教頭の仇名はタヌキであり、イモカン奥田八郎先生は厳しいが、優しい人であるとか色々教えてもらったり、頼もしい先輩であった。先輩に教わるばかりでなく、我々も適当に恩師達に仇名をつけさせて戴いた。国語の鈴野先生はどういう訳かインド河馬であった。或る時大声で怒鳴ったのが先生の耳に入り、言った言わないの問答の後「河馬じゃない。人間だ。バカッ」と叱られ申し訳なく恐縮したものである。数学の米波先生は頭がつるつるでいらした。幾何学の証明を詳しく教えて下さったが我々生徒は数学よりも照明灯と名付けて喜こんでいた。我ながら名作と今でも自負している。モクさんとかキートン、エロタンク等悪餓鬼共が勝手に色々つけさせていただいたが、独逸語の太田先生の場合は一寸違う。或る時ルーゼプッフの中で「ミルヒツ」言う言葉が何度も出て来た。その頃ザーメンの事を我々はミルヒツと称していたものだから思わず笑ってしまった。その時先生が「何が可笑しい」と質問され我々が黙っていると「或いは僕の仇名かな」と御自分で決められてしまった。所で、当時獨協の便所は職員用と生徒用と別棟であり生徒用は禁煙の為、大の所の扉が横に一枚づつ外され

ていた。誠に人権蹂躪で小生は大の時には授業時間中に申し出て職員用を使わせていただいていた。或る時このミルヒツ先生にお願いした所「じきに終るから」と許可をもらえなかった。どうしても生徒用の開放型を使う事が出来ず、苦肉の策で幸い時間が異なるので、坂を下り小石川高女のそこを使う事が出来た。ところが、すっきりした後に終業時間になって女生徒がどやどやと入って来てしまい、出るに出入れず暫くじっとしていたが思い切って囲みを破って逃げて来た。無事生還したものの、この事はすぐ報告があったとみえ、朝礼の時に田村教頭から「昨日隣りの小石川高女から獨協の生徒らしいとの事であった。まさか本校の諸君ではないと思うが」との警告があった。その後友人の家に遊びに行った時、友人の妹が小石川高女の生徒で「兄さんの学校の生徒が云々」と言われたが「それは俺だ」とも言えず今日まで黙っている。しかしあくまでも生理的な理由であり、破廉恥的に行ったものではない。そもそも生徒用の便所の扉を空白にする学校当局のやり方が非難されるべきと今でも思っている。どうも獨協時代の悪童の告白の様になってしまったが、今でも獨協に育った時代は素晴しかった。獨協の生徒であった事に誇りをもっている。「我校樹(た)り蕪々として」の精神は立派に生きている事を肝に銘じている昨今である。

平成3年卒 長瀬 直矢さん 筑摩書房太宰治賞受賞

平成20年6月17日に、平成3年卒永瀬直矢さんに筑摩書房第24回太宰治賞が贈呈された。受賞作は「ロミオとインディアナ」で、女子高校生がそのブログにコメントしてきたなぞの発信者の正体をクラスメイトの男友達と捜しに行く「古代史ミステリ&恋愛コメディREMIX」と紹介されている作品です。なお、太宰治賞は昭和39年に筑摩書房が創設した小説の公募新人賞で、この賞から、吉村昭さんをはじめ、加賀乙彦さん、金井美恵子さん、宮尾登美子さん、宮本輝さんなど多くの著名作家を輩出しております。途中昭和53年を最後に中断していたものが、三鷹市の働きかけで平成10年に市との共同主催の形で復活した由緒ある文学賞です。受賞後の談話として、「人が人である限り芸術、ひいては文学(と呼ぶところのもの)は常に影のごと

く私たちにつきまとい離れないように思われます。そしてこのブンガクなるものにしか開けない地平が確実にあり、私たちはそこで頁を捲りながらこれまでと見た目は寸分変わらないものの似て非なる未知の世界を見晴るかし、一つの物語を終える度に自らを取り巻く現実を更新する手がかりを掴むのです。おもしろきこともなき世をおもしろく。嘘じゃないです。

なので、ビバ 文学。

「作品を通してさらに深く社会と関わっていきたい」と抱負を語っています。そして、「本を閉じたときから再び始まる読み手その人自身の物語に少しでも脚色を加えられるような作品を私も書きたいです。」とも。長瀬直矢さんの今後の作品に期待すると共に、応援していきたいと思っております。

気がつけば57年...感謝!!...

昭和28年卒 赤堀 光男 <奈良県在住>

昭和21年12月21日の払暁、大激震と津波に襲われた南海道地震翌年の昭和22年3月、疎開先の和歌山県すさみ町から3年振りに生地東京に戻り、急ぎ国民学校へ編入学も束の間8日間で卒業.....

中学入学が目前に迫りました、無謀にも慶応中学を受験見事...不合格.....、補欠募集をしている学校があると云うので急遽飛び込んだのが獨協中学でした。

記憶が定かでは有りませんが、富沢先生の面接を受け即決されたようです???。

中学3年間、勉強にソッポを向いて野球が人生とばかりに熱中、全くの野球小僧でした.....

野田君をはじめとして、小林君・萩原君・山崎君・鳥羽君・杉浦(修)君・杉浦(圭)君・平君・三浦君・佐渡君・中村君・杉山君・河野君・吾妻君・浅沼君エトセトラ...

旅立ちそして高校浪人.....

昭和26年3月獨協高校1学年終了と同時に中途退学。

昭和26年3月26日、単身で夜行列車に揺られ大阪へ、不安が一杯でした。時期的に中途編入を受け入れてくれる高校が見付らず已む無く1年間の高校浪人を経験。関西になかなか馴染めずにいる頃、藤田君・松島君の励ましの手紙で勇気付けられ大変有難かった思い出があります。浪人中は、成す術も無く暫くは大阪の町を探索したりしていました。

新たな出発.....

何となくダラダラした生活をしているうちに、昭和27年4月、或る縁によって中学入学時と同じような経緯で近畿大学附属高校ならば入れるとの話を聞き、福音来れりとばかり普通科2学年に編入学することが出来ました。

【昭和16年4月南京第1国民学校・昭和16年10月芝区立愛宕国民学校・昭和19年11月和歌山県すさみ国民学校・昭和22年3月小石川区立青柳国民学校.....4回目の転校でありました。】

この高校の校舎、獨協中学に負けず劣らずの老校舎でした。英語の時間に指名されてリーダーを読まれた時の事、《流石、東京のドイツ語で有

名な学校に居ただけの.....事はある》まさか浪速の地で獨協の話が出るとは.....!? 在籍中は図書部・新聞部・生徒会に属し結構楽しい2年間でした。

昭和29年3月同校卒業。同年4月立命館大学文学部日本史学科に入学。昭和33年3月同学を卒業。入学当初、林家辰三郎教授に憧れ古代史を専攻したが、卒業時は何故か奈良本辰也教授に鞍替えし、中世史に変わっていました。

京都時代は授業に出る時間より近くの京都御所で何となく屯したり、喫茶店通いで良く学び???、良く遊び、大変楽しい4年間を過ごす事が出来たように思っています。(余談ですがよく通った喫茶店では、昭和初期創業の老舗が有ります。四条河原町の近くですのご来京の際にはお出かけになってください『築地』と言います)

茨の道.....

大学卒業.....何となく過した報いか...、ここから山有り谷有りの人生がスタートした訳であります。言わずと知れた就職難、連日就職課へ足を運び言われるが俚に福岡・広島・福井・東京に職探しの行脚を始めるが全く良縁なし.....。結局、大阪のとある新聞社(本社東京)に潜り込む事が出来ましたが、何故か2週間の出勤停止を食らい躓きが始まったように思います。

結局、何だかんだと有った拳句、職種が合わず悶々としながら2年後に退職することになりました。その後、何とまあ2年間(東京・大阪)働けど我が暮らし楽に為らずの惨憺たる有様.....。捨てる神有れば拾う神有りと勝手に思い込んでいますが、昭和37年11月高校の友人の世話で或る機械問屋(プレス機械)に転職し心機一転、慣れない経理等の事務の仕事に我を忘れて懸命にこなす内に、これまた友人から転職を勧める話が持ち込まれ、やっと明るい展望が見えて来た状態でした。

昭和39年3月26日、ドイツ(当時は西独)の印刷機械を輸入販売している専門商社に転職し、ここで平成6年4月3日に定年退職を迎えるまで30年間勤務できたことは最高の幸せを味わうことが出来ました。ここでは、主に総務・人事畑を担当

日高校・専門学校・短大・高専・大学の就職課、教授室を巡り新しい人材の確保に飛び廻った事は素晴らしい経験として今でも脳裏から離れない.....。

その他のこと.....

中学の頃、狭いグラウンドで野球をやり、近所の民家にボールが飛び込みよく怒られたことや、新見先生から野球を取るか、勉強を取るか、成績をチェックすると言われてたり.....。修学旅行??で鎌倉・伊豆葎山・伊豆大島を訪れたことは楽しい数ページとなりました。皆さん覚えていますか?油壺に行ったときのことですが江沢君が船着場に渡ろうとして、間に合わずドボンと水中へ...、大島のときの案内人の“デッパツ”(出発)の号令を.....。大阪に転じて、獨協高校の関西旅行で大阪駅にて懐かしい面々に会えた事は感激の一齣でした。

昭和57年5月、終戦後の混乱期を過ごした獨協の事が懐かしくなり、学校宛に長い手紙を出したところ数学の古川成太郎先生(当時教頭)から懇切丁寧に色々な事を書き記したご返事と地図を頂戴し大感激をしたことが思い出されます。在職中に定年退職者を東京旅行に伴い椿山荘を訪れた際、目の前の獨協に立ち寄り余りの変わりように吃驚したり懐かしんだことを昨日の事のように鮮明に記憶しています。

3年前に、インターネットで獨協のホームページを閲覧して同窓会名簿を買い求めたことが2007/5の『双葉会』出席の発端になろうとは.....。名簿を開き、懐かしい名前を探し出したときの喜びは大変なものでしたが、名簿中の物故者一覧に目をやって一瞬寂寥感に襲われました。この名簿

が切っ掛けとなり藤田君・松島君・鈴木君と京都での47年振りの再会(2005年9月17日)が叶い京都の天麩羅やで痛飲??してこれまた大感激.....。



昨年5月、佐藤明德君から『双葉会』へのお誘いを受け、思い切って上京参加しましたが、やはり50数年のギャップは大きくほんの一部の同輩の顔しか思い出せなかったけれど、藤田君の解説で段々と思い出すようになりました。実に楽しい集まりでした、人生続く限りまたの再会を果したいものです.....。

定年後に始めたパソコンも写真のレタッチをはじめメールの送受信、ホームページの閲覧を楽しんでおります。同好の諸兄方のメールを楽しみにお待ちしております。

パソコン northfield10@ck9.so-net.ne.jp

iモード settchara.uon-89@docomo.ne.jp

いま考えてみると、自分の人生は全て友人達によって道が開かれ、大きく支えられて来たのだな.....!!と

大感謝の念で一杯であります!!

同窓会、獨協祭に参加、そして...

去る9月27日(土)・28日(日)の両日、獨協祭が開催され、同窓会は3階306号室(中選択教室A)を展示会場として利用させて頂き、参加することができた。

同窓会がこのイベントに参加したのは、過去を振り返っても今回が初めてではなからうか...。参加の発端は何かと言えば、本年最初の常任幹事会において提議された、「同窓会が今後さらに発展する為には、何が必要か?」からだった。そして、多くの

意見の中から、「同窓生はもとより在校生にも、今まで以上に当会の活動をアピールすることが、今後の活性化・魅力化に繋がる」ということが引き金となった。「それには、今年の獨協祭参加が良い機会ではないか」との意見に達し、今回から毎年参加することという結論に至った訳である。

展示会場には、「獨協の歴史」と題して3つのコーナーを、そして即売コーナーと茶話コーナーとを設置した。その展示内容は、“獨協学園120年のあ

ゆみ”、“獨協学園・歴史地図”及び“獨協教育精神の系譜”(提供：獨協大学内獨協学園資料センター)を掲示し、学園史を語る書物を展示。学園中興の祖：天野貞祐先生の生涯と思想について掲示し、著作品・直筆原稿・色紙等も展示。また、先生の講演テープをお流しした。(掲示資料：獨協学園資料センター、テープは獨協大学図書館の提供)同窓会の活動内容を掲示し、同窓生医師で構成されている“ドクターズ・クラブ”の活動内容も掲示。天野先生をはじめとする歴代・中高校長の執筆による“リンデンバウム叢書”を展示し、希望者へ贈呈。更に、即売コーナーでは、“目で見る獨協百年史”、“同窓会



オリジナルグッズ：タイピン&ストラップ”、“創立100周年記念はがきセット&中高新校舎落成記念はがきセット”等を展示販売した。

老齢にも拘らず遠方よりご来場頂いた昭和14年卒の神尾精勝氏とその同窓の馬淵静雄氏の両大先輩、かつて教鞭を取られていた富岡先生他諸先生方、これからクラス会があると来場された同窓生の方々、平成卒業の若き同朋達(その中から新幹事が3名誕

生した)そして在校生諸君、更には、“来年(あるいは再来年)に子供を必ず獨協に入れます!”とお話頂いた保護者の方々がいらした事、勿論校長をはじめとする教職員の方々など、250名を超える多くの方々に足を運んで頂いた事は、我々実行委員にとっては感極まるものがあった。茶話コーナーでの団欒は、獨協という一つの輪を感じる和やかなひと時であったのではないかと…。また、即売コーナーでの売上は約6万円となり、過去の総会後の懇親会でもなかった売上となった。因みに、これらすべては原価販売である。

このように、獨協祭参加結果は、“初参加としては上出来”だったと言っているのではないかと思います(確かに反省すべき点が多々あったことも事実でもあるが…)。それは、在校生をはじめPTAや教職員の方々へ、更には母校を見学に来られた受験生とその保護者の方々へも、我が校の輝かしい歴史を知って頂いたことだけでなく、同窓会の存在意義を認識して頂いた絶好の機会になったことと信じて疑わない。また、獨協通信(70号)に参加告知をしたことも功を奏したと言えよう。そして、喜ばしい事として、今回の獨協祭参加により新幹事が5名増えた事と、残念なことではあるが、在校生の諸君が獨協の歴史や天野先生についての知識が乏しい事(一部の生徒かも知れないが)との2点を追記したい。

また来年、いや将来ずっとこのお祭りでも、多くの方々とお目にかかれることを期待してやまない。

最後に、この獨協祭参加に当たり、惜しみなくご協力下さいました獨協学園資料センター・中村女史、獨協大学同窓会・吉原女史、獨協大学図書館・佐々木課長、そして中高教職員の方々と同窓会幹事の方々に、心から感謝の意を表したい。(記：櫻田可人)



同窓会展示会場参観者の方々

栃木の地で在宅ホスピス 末期がん患者さんに寄り添って

昭和53年卒 渡辺 邦彦

「同窓会に参加できないなら獨協通信に原稿を書いてよ」と同窓会副幹事長の谷口君からお手紙をいただいたので近況報告をさせていただきます。この春から団塊の世代が退職する時期となりました。「これからは組織のしがらみにとらわれず、自由にやりたいことをマイペースでやって第二の人生を楽しんでください。」というような贈る言葉。そして、「やりたかった趣味を満喫するとともに、これまでの経験を生かし、これからも社会に少しでも貢献していきたいと思います。」などというお礼の挨拶が聞かれたことでしょうか。今の私の心境も全く同じなのです。すでに余生に入ったのかもかもしれません。

獨協医科大学病院、栃木県立がんセンターという大きな病院を辞め、2006年に在宅ホスピスとちの木という訪問診療所を開設しました。組織の束縛から開放され、自分のやりたかった医療を自分のペースではじめました。授業をサボっていた懐かしい大学生時代を思い出し、昼も夜も栃木県全域を毎日ドライブしています。今、私が行っている在宅ホスピスの仕事で、患者さんや家族に進行がん患者の体に生じている現象を分かりやすく説明しなくてはなりません。その際、大学院時代に行っていた研究が病態生理の理解に大変役立っています。医者になったばかりの若かりし頃は「獨協医大は自分たち獨協学園の卒業生が発展させなければ」といきまいて、臨床や研究に没頭しました。脳神経外科医としてチューリッヒ(スイス)リヨン(フランス)に留学した際、思う存分研究することができました。その成果としてWHO脳腫瘍分類という世界中で使われる教科書に自分の論文が10報引用され、脳神経外科医としての達成感が得られた頃、私は緩和ケアの重要性に目覚めはじめ、最終的に緩和ケア医になりました。緩和ケア医に転向してからはオーストラリア、ニュージーランドへ留学し、日本で行われている病棟での緩和医療は緩和ケアのごく一部でしかなく、最も大切なのは自宅でのケアであることに気づきました。脳腫瘍という“病気”を相手にしていた脳神経外科医の頃と違い、価値観の違う一人一人の“人間”を相手とする緩和ケアというジャンルでは、他の人に自分の考えを伝えたい時、科学的に学術論文として

発表するのには向いていないと私は考えます。そこで、一般の方にも読んでいただけるような原稿にすると、“幸せのシッポ”という一冊の本として全国出版され(文芸社)現在3刷り目になりました。さらに、在宅ホスピス開業直前に腰椎すべり症となり、自分自身がモルヒネを飲まなくては生活できなくなるといった経験をしました。また、手術を受けた後、歩けるようになるまで2ヶ月間のリハビリテーションが必要でした。それらは緩和ケア医として願っても得られない大変貴重な経験となり、在宅ホスピスの仕事にも大いに役立っています。モルヒネの誤解をとることも緩和ケア医の大きな役割ですが、それらをまとめて“痛みよさらば - モルヒネが救ってくれる - (文芸社)”という2作目の著書として出版し、現在2刷り目になりました。

私の今行っている在宅ホスピスの仕事を紹介すると、2007年の1年間で獨協医大、自治医大、県立がんセンターのがん治療病院から様々な進行がん患者さんが約100名が紹介され、87名が亡くなりました。その内80名は自宅で亡くなりました。「息を引き取った」という連絡を受けてから死亡を確認しに行き、死亡診断書を書くというのは自分の流儀ではありません。自宅で家族を看取る経験がほとんどない昨今、残される家族にとって自宅での看取りが辛い経験とならないようにしたいのです。一人の人間が息を引き取るという最も荘厳な瞬間までの貴重な時間が、遺族にとって懐かしい思い出になればと思っています。そのような思いで、時には患者さんの家に泊まり、何時間も家族と一緒にいて最後に看取った方は52名でした。一年間で定期的な訪問診療は1200回、緊急の往診は440回を超え、気がつくと6万キロ以上ドライブしていました。今行っている私の仕事は大変非効率的で、こだわりぬいた趣味の医療といっても過言ではないと思います。しかし、新聞やNHKで何回も紹介されるところをみると、少しは社会貢献になっているのかもかもしれません。私にははっきり言えることは25年間の医師としての生活の中で、この仕事は最もやり甲斐を感じるし「医師になって良かった」と心から思いながら、生活しているということです。家族を含めこの環境

環境を作るのに貢献してくれる全ての人々に感謝しています。

そして、このような自分を育ててくれた獨協高校

ドイツ語クラスの仲間にも感謝しています。栃木県から外に出ることは当分ないかもしれませんがこれからもよろしく願いいたします。

昭和28年卒 橋本幸雄さん「上野国世良田長楽寺改宗と天海」を上梓

本通信 69号に寄稿して頂きました昭和28年卒橋本幸雄さんが長年の研究の成果を纏められ「上野国世良田長楽寺改宗と天海」を出版されました。橋本幸雄さんは獨協卒業後、昭和32年明治大学商学部を卒業され、家業のカレー粉製造業を引き継ぎました。学生時代から歴史には造詣が深く、事業の傍ら市井の研究者として長年研究に専心され、その集大成として専門書「上野国世良田長楽寺改宗と天海」(B6判・150頁、岩田書院刊)を発行されました。著書は地元である群馬県において、平成20年3月のベストセラーとなったそうですが、その内容紹介は明治大学名誉教授である圭室文雄先生の序文を以下に掲載させていただきますので、これを参考に歴史に関心の方はぜひご一読をお勧めします。

序

著者橋本幸雄さんは長年にわたり新田氏の研究を続けている篤学の士です。昭和三十二年(一九五七)明治大学商学部を卒業、その後実業界に入られ現在株式会社甲味食品興業所代表取締役としてその腕をふるっておられます。橋本さんは学生時代『徳川家康文書の研究』で高名であった東京大学教授、のち明治大学教授の中村孝也先生の指導を受けられたため、その後も若い頃から仕事の合間をさいて研究に専念されています。

上野国を中心として寺院・神社・文書館・図書館、さらには資料所蔵者の旧家を探訪され、古文書の調査はもとより新田氏や徳川氏の墳墓を調査するなど、フィールドワークも続けて、研究会活動に参加され、次々に研究成果を発表しておられます。

また橋本さんは集書家としても有名です。新田家に関する資料や文献はもとより、日本史研究の基本図書である『大日本史料』『大日本古文書』『増補史料大成 正・続』『群書類従 正・続・続々』『鎌倉遺文・平安遺文』『改定史籍集覧 正・続』などの全巻、そのほか関東地方の自治体史は洩れなく集められ、神田古書店街の歴史・文学図書を扱う書店では橋本さんの名前を知らない店主はいないほどです。

橋本さんが集められた貴重な文献・史料・著書は自

宅の大きな書棚に所狭しと並べられたり積み上げられたりしています。そしてまた「橋本文庫」として公開されています。私も時々その恩恵に浴し、閲覧やコピーをさせていただきます。目的に則して利用すれば大学の図書館よりはるかに充実しています。

今回橋本さんの多くの論文の中から「上野国世良田長楽寺改宗と天海」と題して一冊の本が岩田書院から刊行されると聞き祝意を表したいと思います。とりわけ実証的研究・調査を踏まえてこの論文にはこれまでの天海の評価とはかなりことなつた見解が見られます。これは新しい知見として後進の研究者の一つの指針となると思います。在野の研究者が地道に長い期間をかけて地域史を掘り起こされた事は高く評価できます。

発刊にあたり橋本さんの紹介をかねて若干の祝意を述べさせていただきます。

二〇〇七年三月吉日

明治大学名誉教授 圭室 文雄

上野国世良田 長楽寺改宗と天海



事務局よりお願い

この独協通信は会員のご自宅に年2回(5月と12月)ヤマトメール便でお届けしておりますが、なかには「転居先不明」「届け先不明」で戻ってくるものも多数あります。

住所などを変更された方、また、市町村合併等で住居表示が変更になった方は、同窓会事務局までご連絡いただきたくお願いいたします。

クラス会だより

昭和18年卒英語科 獨協一八会

平成20年6月7日(土)恒例の獨協一八会クラス会(卒業者英語科147名)を「アルカディア市ヶ谷」で開催し、今回14名の参加でした。大久間喜一郎先生(91歳)の出席を頂き、お元気なご挨拶と、美声で歌を披露され、一同大喝采益々のご繁栄を祈りました。次に物故者65名の冥福を祈り、田中幹事の同窓会・母校の近況報告諸行事について協力方の報告があり、THE HISTORY OF DOKKYO を獨協学園同窓会事務局から頂戴して配布されました。獨協学園のこれまでの、目覚しい発展を想い感無量でした。次回は平成21年6月6日ということで再会を約し、散会しました。(友田 文夫・記)



昭和20年5卒 牙城会

平成20年5月18日(日)丸ノ内トラストタワーN館、中華「過門香」にて出席者21名で開催した。

21名の友人達が集合。先に旅立った多くの級友達に、深い思いの祈りを捧げて宴に入る。又この度芽城会傘寿記念事業として企画した文集も全員 노력により完成した。約2時間の静かな談笑と杯の応酬を終え、一抹の不安を抱きつつ来年の再会を約し解散となりました。(畦森 公望・記)



昭和23・24年卒 獨協十八(とうはち)会

平成20年5月10日(土)午後1時より目白椿山荘「錦水」にて第27回のクラス会を開催しました。当日は、12名の参加でしたが、常連2・3名が日取りの都合が悪く見合せた為に例年よりは少い集りとなりました。

今回も福岡から北川君(介護者付き添いで)車椅子で参加の戸倉と会が盛り上がり一同楽しく過ごすことが出来ました。散会后、恒例の集合記念写真は腕達者の大場君のカメラで生憎の雨でも「雨に唱えば」の映画を思わせる良い写真が撮れました。訃報：昨年12月24日、香田忠男君が亡くなりました。ご冥福をお祈りします。(幹事/伊原・記)



昭和27年卒 花の二七会

平成20年6月28日、5時より同輩の赤平君(故人)が経営していた神楽坂のトリノで二七会を開催しました。今回も91歳になられた恩師、大久間先生をお迎えすることが出来、毎年変わらぬ先生のお元気なお姿を拝見しているとまだまだ我々も頑張らなくてはと思います。

会は此の一年間に亡くなられた方の冥福を祈りそれぞれの近況報告等を交えながら和気藹々と昔話し



クラス会だより

に花が咲き約3時間の時を過ごしました。写真の大久間先生の隣りに写っているのが赤平君の奥さんです。
(幹事/山本・渡辺・朝比奈)

昭和31年卒 ドイツ語クラス

春爛漫といえる穏やかな4月5日(土曜日)の午後。昭和31年卒業のドイツ語クラスは獨協倶楽部でクラス会を開催した。平成6年度の日本翻訳文化賞を受賞され、ゲオルゲの翻訳で体調を崩され体調不良にも拘らず富岡近雄先生にはご夫妻でご臨席を賜った。杜甫がその昔、古希を迎える歳になったら仲良く暮らなさいと詠んだとおり和気藹々昔話に花を咲かせお互いに健康を喜び再会を誓った。

来年は4月第1水曜日に獨協倶楽部で開催を決め散会した。
(幹事 山口 真護)



古川38会

平成20年7月20日(日)虎ノ門近くにある台湾料理店パオで古川38会を開催いたしました。昭和38年中学卒業の我々は、本年全員還暦祝いということもあり、盛り上がりも最高潮となり、また、ご臨席を賜った古川先生も相も変らぬお元気さで、落語の一席どころか三席までご披露いただいた次第です。古川先生の澆刺さはとても大病を4つも経験された



85歳とは思われないほどのものでした。

2次会は銀座にある獨協倶楽部で行われましたが、最後に渡辺応援団長による校歌斉唱により解散となりました。来年も会は継続して開催されることから、同窓会誌をお読みの方は是非ともご出席ください。

(文責 遠藤)

昭和40年卒ドイツ語クラス 獨新会

今年の我が会は、9月27日(土)6時半より、国松昭先生と小平晋士先生をお迎えして、椿山荘にて開催致しました。

今回は、同窓会が獨協祭に初参加することから、懐かしい母校が新校舎となって10年、その変わり様を目で確かめるには丁度いい機会、ということで、この日の開催となった次第です。参加者は、20名でしたが、残念なことに大川文夫君がこの9月6日に他界され、また一人、大切な同朋を失ったことです。ご冥福をお祈り致します

散会は、来年の獨協祭が開催される日に再会することを約して...
(記: 櫻田)



昭和52年卒 3年1組

4月12日、恒例の昭和52年卒1組のクラス会を開いた。今年も、中学時代の主管古川成太郎先生がご高齢をおして参加くださるということで、先生のお住まいに近い新宿西口の和食店で行った。

当日は古川先生と同窓生数人が集まったところで早くも談笑が始まり、他の同窓生と高校時代の主管糸井透先生がいらしたところで改めて一同再会を祝して乾杯。その後、参加者それぞれの近況報告が行われた。糸井先生は本会に来る途中でメガネをなくされたことをいつもながらの口調で話され、一同お

クラス会だより

おいにもりあがった。
8時過ぎに1次会を終え、古川先生をお送りした後、近くのドイツビールのある店で2次会となり、ここでも「よくしゃべるクラス会」が続いた。

(来年もやります！橋本君が……) 文責S・K



平成13年卒業 5組同窓会

6月21日土曜日に平成13年度卒業の5組同窓会が新宿で開催されました。卒業から7年が経つと卒業生の状況も様々で、立派に社会人になっているものもいれば、学生として日々成長し続けているものもいて、一堂に会し、近況について報告しあおうでは



私の近況

健康元気に暮しております。妻は戸外で転倒、リハビリにつとめております。田中 正名(昭7卒)

御迷惑をおかけして申し訳ない。起立性低血圧で杖ついでやっと歩く一人暮らし。山 眞弘(昭8卒)

卒寿を迎え、至って元気で居ります。長寿のお蔭で、曾孫に恵まれました。而も、双子の男の子です。毎日を楽しんで居ります。早いもので現在3歳となりましたこの分だと100歳までは、長生きしそうです。弓

削 義邦(昭10卒)

来年の米寿を前に特に健康に留意しています。

駒木 實(昭14卒)

ないかということで、企画が持ち上がりました。卒業アルバムを頼りに旧友に連絡したところ、最終的には卒業生11名に、担任の高畑先生を加えての12名の会となりました。懐かしい仲間と再会すると、気分はすっかり高校時代に帰り、思い出話に花咲く愉快的な数時間でした。今回は余り集まれませんでしたが、次回以降は徐々に参加者を増やしていきたいものです。(幹事ノ記)

第3回 杉並獨協会

平成20年7月12日、阿佐ヶ谷の割烹・鈴紅で3年振りに獨協会を開催。発起人の声掛けに応じ多彩な仲間が参加。会のメンバーで昨年の3月に学園を定年退職された数学の金有一先生(昭35卒)に記念品を贈呈。田中良君(昭54卒)の司会で座も盛り上がり、世代を越えて同窓ならではの話に熱中、歓談のなか商談(?)が成立する場面も。和気藹々の超ミニ同窓会でした。若いOBの諸君、ぜひ参加を。(昭54卒ノ長田茂ノ記)



10月の誕生日がきますと満87歳になります。現在元気で日々の診療(内科)に従事しております。9月27日の同窓会、学園祭には是非出席したいと思っております。

神尾 精勝(昭14卒)

同窓会のお世話頂き感謝致しています。同窓の皆様各界にてご活躍同慶の至りです。小生何とか故障もありませんが無事に過ぎて居ります。学校並びに会の更なる隆盛をお祈り致します。桑島 照(昭14卒)

現在趣味の音楽で中野区区民交響楽団に入りヴァイオリンでオーケストラでの合奏を楽しんでいます。

年に二回の定期演奏会あり。小澤 武彦(昭14卒)

私の近況

医師を80歳で止めました、元気です。

丸毛 英二(昭15卒)

倅共の邪魔にならぬ程度に現役で頑張っております。同期の畏友・整形の長野先生も未だに現役・小生復員以来何かとご厄介になっております。

倉谷 三男四郎(昭16卒)

親しかった同級生も年々少なくなりました、最近老化現象もちらほら徐々に見えて来ました。60年続けて来た歯科医院もそろそろ閉院する事になり後継者の無い私は老後を想うとひとしお淋しくなる昨今です。

児玉 政治(昭16卒)

獨協通信を懐しく拝読しています。昭和16年卒業生の同期クラス会は、80歳のとき以来なくなりましたので情報はこの通信のみ、有難うございます。

澁澤 太郎(昭16卒)

まだ精神科診療を続けています。

高橋 芳和(昭16卒)

老齢化により最近目がかすみ勝ちになったため急遽白内障の手術(両眼)を受け、目下静養中です。母校の進学状況が依然としてパツとしないのが残念です！成功例を研究してみても...

桜井 保光(昭17卒)

83歳元気で居ります。

内田 東五(昭17卒)

毎年気のおけない同級生7人~8人と会って昼食会などをしております。

山口 勝(昭17卒)

獨協卒業して66年になります。毎年獨協通信を頂き有難うございます。

安藤 能久(昭17卒)

~係・~会長~代表と今年は三重苦にあえいでいますが逆に脳の活性化にはよいかも知れないと開き直っています。

永嶋 宏(昭17卒)

私は昭和18年卒で同年東京歯科医専に入学第一次で2人第二次で2人、翌年3人で入学して来ましたが今は私をのぞいて全員姿を消しました、大変さびしい年齢です。現在は私の息子(同業)の所で週3回月、水、金出勤しております。

蒲 滋(昭18卒)

老人ホーム毎日、日なたぼっこの居眠り人生！先の事も何も考えてません。

高橋 実(昭18卒)

NHK学園国内スクーリングに年8回程、講師と学園スタッフに連れられて行きます、2年程前から海外は飛行時間が長いので止めました。常時見込のない書道にはげんでいます。

土屋 雅義(昭18卒)

最近、専門のトライボロジー以外に科学史にも手を出しています。徂徠の言の如く、「学問とは歴史に尽きる」

原田 茂久(昭20 4 卒)

本年80歳になるのを機に診療所を解体しました。残った医師免許証を前にさて何をしようかなと思案中。そんなこと建物こわす前に考えとけ！何て言われてもナー！？

桑原 和彦(昭20 4 卒)

いつしか、齢を重ね、80歳を越えました。健診施設に週3日勤務しています。戦時下でしたが獨協生の少年の日を懐かしく想われます。

唐木 清一(昭20 5 卒)

傘寿を越え、通院加療中ですが、何とか元気に過ごしております。毎年度ご連絡を賜り厚く御礼申し上げます。

志茂 昌幸(昭20 5 卒)

ボケまいと一生懸命です。もの忘れがひどく女房に馬鹿にされています。オイボレマークをつけて車を走らせています。お世話になって居ます、7月7日トロッコ会、今年はどうしたものかと考慮中です。

河野 豊(昭20 4 卒)

老境に入り、ボランティア活動に。

青木 伸福(昭20 5 卒)

9月27日、学園祭に併わせてクラス会予定しています。そして母校見学もします。その節はよろしく！！

服部 忠男(昭21卒)

昨年9月30日付で京王電鉄、本年3月31日付で(学)了徳寺学園顧問を退職、東京都総務局長を昭和32年に退職して20年間の関連団体等の役職から離れることになりました、7月に満80歳を迎えます。お蔭様で元気ですので少しでも社会のお役に立つよう心掛けて参ります。

有竹 雅夫(昭21卒)

傘寿の年齢になりました。永井伸一校長の益々の御活躍を祈りおります。

高崎 悦司(昭22卒)

78歳にして油絵を始めました。

西田 忠彦(昭22卒)

2000年(株)高島屋役員を退任後、長野県八ヶ岳高原にてスローフーズライフ・ゴルフ等年間1/3日を楽しんで居ります。

大倉 郁雄(昭23卒)

奥多摩の山中に移住して早や10年、医学研究所で生化学の研究三昧から180度転換し、現在ではシカの木彫家として「悦鹿」木彫工房を開いて余生を楽しんでおります。

大橋 望彦(昭24卒)

地元で7年来、近世古文書学習会に参加、学校卒

私の近況

業以来、猛(毫)勉強に励んでいます。

石塚 雅則(昭25卒)

医師不足と医療崩壊のとばっちりで、未だ月平均40時間、4か所で診療している。一寸した売れっ子チヤマの気分である。 本田 光芳(昭25卒)

6月15日(日)新宿にてグループで食事の予定、皆元気で逢える事が楽しみです。田中 重穂(昭26卒)

平成19年12月69号について。橋本幸雄君投稿文中、入学写真の長田先生は本文中の永田先生が正しく、卒業写真の漆原先生は漆山先生が正しいと思います。尚、私事ですが観音寺は我が家の菩提寺でお参りに行った時にカレーの匂いがしたのを思い出しました。 赤川 明(昭26卒)

最近ではモンゴルで地下資源の仕事にも関係しています。 千葉 誠(昭27卒)

中学時代毎週のようにタンゴの演奏会に通った藤沢蘭子ファンの浅井英雄君、ゴルフでシングル級の腕前を持ち最近まで恒例の鎌倉散策と一緒に楽しんでた渡辺昌一君と相次いで同級生が鬼籍に入り寂しさが一入の此頃ですが、気を引締めゴルフや水泳で体力を維持し周囲の迷惑にならぬよう精一杯頑張っております。 鈴木 孝男(昭28卒)

60歳から始めた趣味のウォーキングで地球一周4万kmを達成、日本ウォーキング協会より、認定表彰をうけました。今も元気で歩きまわっています。

与那原 邦夫(昭29卒)

27年卒の筈が勉強しすぎて(?) 29年卒となり、結果、友を多く持つ幸いを得たが、時と共に冥府に急ぐ友が多く、天より見おろしている彼等の顔を想像遅しゅうしている昨今です。 佐藤 矩男(昭29卒)

昭和30年卒、森田君幹事の同窓会やって下さるよう頼みましたがどうも今年は開催出来ないとの事、残念に思います。 梅田 博(昭30卒)

相変わらず現役を続けて居ります。7月にマンション関係の設備トラブルに関する本を出す予定です。

山本 廣資(昭33卒)

これまでに取りためていたデジカメ写真やVTRのDVD化などで、パソコンライフを楽しんでいます。

桑原 邦紀(昭34卒)

次男が公認会計士試験に合格し、親子で監査業務に励んでいます。 園田 光基(昭34卒)

昨年の夏で産院は閉院。JR熊谷駅ビルにて、女

性クリニック&思春期オープンハウスを3年前から開院。女性と若者達の心と身体の治療とケアに努めている。そして若者達への性教育は30年間続けて居る。

中山 政美(昭34卒)

本年4月1日より中央労災医員に就任いたしました。

松島 正浩(昭35卒)

議員及びその後の公務も停年引退、地元のボランティア等、第2の人生を送っています。

樋田 修廣(昭35卒)

東邦大学を退職し、藤沢市にて地域医療や健診に専念しています。同窓会としては母校への貢献を現実的なものになりたいと考えています。

鈴木 荘太郎(昭35卒)

三菱レイヨン退職後、趣味の合唱に明け暮れています。3年前脳梗塞で倒れましたが、現在は以前と変わらず過しています。36年卒の集りの時はお知らせ下さい。

清田 正隆(昭36卒)

ややメタボの身体で小さな薬局を細々と家内と二人でやっています。身体は元気です。孫は三人となりました。

保坂 直孝(昭37卒)

天野貞祐校長の Freiheit の話を想い、千人の職員をかかえ地域医療を必死に支えています。

石川 詔雄(昭39卒)

同窓会役員の皆様にはお世話さまです。昭和47年に開業して動物診療36年目になります。現在、特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会会長として、鳥獣の保護及び鳥インフルエンザの調査等を行っております。

新妻 勲夫(昭39卒)

私は端艇部出身でボートに明け暮れました。今も広報担当で記事や写真でボートに明け暮れですが、孫の成長も楽しむ年代です。 宮田 雅則(昭39卒)

昭39年卒、現在63歳定年退職後、近傍の特養にて高齢者の為に機能訓練室にて機能訓練指導員として頑張っています。

打田 正昭(昭39卒)

定年退職後、再任用職員として、引続き都に勤務しています。デカ栗直伝の数学物語を高校生に語っています。

石田 典昭(昭41卒)

満60歳にて、サラリーマンを定年退職し、スローライフを満喫しています。岡本 文隆(昭41卒)

独語・英語の合同クラス会、とても楽しいひと時でした。久し振りの母校も、我々の頃には木造の体育館があったことなど楽しい思い出を語り合いまし

私の近況

た。宮崎 輝雄（昭42卒）
相変わらず high risk low return の仕事をして
おります。中野 雅道（昭
42卒）

今年も風船をつけた救護ボランティアランナー
として東京マラソン大会に出場。自分も救護され
ずにゴールしました。齊藤 達雄（昭43卒）

本年もサッカー部初蹴り（現役・OB交流会）1月
27日（土）行なわれました。昨年より始まりまし
た。OBの皆様、サッカー部H.P.をご覧ください。来年は
お会いできると良いですね。齊藤 幸一（昭43卒）

歴史ギャラリー企画展（大村仁太郎展）が成功
裡に終了しました。みなさまのご協力有難うござ
いました。獨協資料センター所長として一言御礼
を申し上げます。新井 孝重（昭43卒）

法律事務所を開業した時に誕生した長女が、早
いもので大学に入学しました。日吉まで元気に通
学しています。戸崎 透（昭47卒）

現在でも獨協47年卒の仲間と年1回私的なOB会
をやっています。ブラボー獨協！！

堀 邦彦（昭47卒）
長男は獨協中学3年、次男も今年入学しました。
荻野 和律（昭48卒）

NST（栄養サポート・チーム）と摂食・嚥下療法
で地域のために頑張っています。皆様もご理解頂き、
ご協力下さい。岩崎 克夫（昭48卒）

宅建を中心とする通信教育・出版の会社を起業し
ました。自由国民社より「ポケット宅建過去問カード」
を出版しました。(3,150円) 桧山 公一（昭49卒）

本年も恒例のクラス会を2月に開催し、主管の
木村重利先生を中心に10人前後が集まり旧交を温
めました。同期の皆さん、連絡下さい。一級先輩
のS先生とは、若い時からの道楽（自動車レース）
が同じで、今年は四輪の耐久レースチームに入れ
て頂きました。寺田 壮治（昭51卒）

関西に赴任して20年がすぎました。母校の発展
をお祈りしています。茅野 宏明（昭51卒）

昨年暮、同級生だった伊藤文男君が亡くなり、
突然の同窓会の様になりましたが、これを機会に
同級会が開かれることになり喜んでよいのやら寂
しい限りです。久志本 明人（昭52卒）

昨年の3月に地元川越で開業し、ようやく2年

目を迎えることができました。保刈 成志（昭53卒）
中野でペインクリニックを開業して3年。来年、
卒業30年と知り、時の流れを感じます。

鳥海 和弘（昭54卒）
本年度より同窓会常任幹事になりました。同窓
会発展のため尽力したいと思います。よろしくお
願い致します。野村 芳樹（昭54卒）

東京警察病院は平成20年4月に、獨協に近い飯
田橋から中野に移転しました。新天地でがんばっ
ています。林 達之（昭54卒）

学生時代と変わらず、水泳、野球、ゴルフと運動
ばかりしています。皆さん、体に気をつけて、頑
張りましょう。佐藤 博（昭56卒）

開業後7年順調に推移しまして、此度、ビル診
療所を卒業しまして土地、建物共自前の診療所に
しました。安富 文典（昭57卒）

昨年（2007年）8月にマラヤラム語（南インドの
ケララ州の公用語）の文法書を出版しましたので、
1部贈呈したいと思います。山ノ下 達（昭59卒）

獨協の友人とひょんなことから連絡をとりあえ
る様になり嬉しい限りです。岡本 浩一（昭61卒）
東京歯科大学では、獨協卒業生による同窓会を
毎回おこなっております。田中 公文（昭63卒）

本人は、ニューヨークに留学中です。10月で丸
2年になります。研究に日々頑張っているようで
す。小澤 達也（昭63卒）

昨年は地震で大変な思いをしました。四川の大
地震のニュースをみると思い出されます。

山本 大輔（昭63卒）
同級生で高校時代からはじめた草野球チームは
今年も足立区のリーグでがんばっています。

中野 博隆（平4卒）
先日、春の個展も無事終了しました。

平 厚志（平4卒）
結婚しました。妻の父・兄・弟が獨協OBでした。
木原会長、99会宜しく申し上げます。

新田 裕介（平5卒）
娘も、5歳と3歳になりました。だんだん生意
気になり、口も達者です。藤島 一郎（平
7卒）

家族の入退院などありましたが、皆無事で過ご
しております。近作二句、甘夏をむく丁寧に生き

私の近況

新しい職場に移り、初めて校務分掌に携わっています。 森 文彦(平13卒)

4月から都内の商社で自動車関連商材の調達を行っております。学生時代とは一変、規則正しくサラリーマン人生を始めました。

渡邊 雄介(平16卒)

先日、獨協時代の友人達に会う機会がありました。卒業してから数年になりますが、連絡をくれる彼らに感謝です。 皆川 裕太(平17卒)

大学4年生。ただ今教育実習で母校に戻って参りました。 鈴木 雅之(平17卒)

もうすぐ就職活動です。 渡邊 晴郎(平18卒)

大学生活にもすっかり慣れてきました。と思っていたら今年の夏から一年間留学をする事になりました。

あちらでも頑張っていこうと思います。

塚越 将記(平19卒)

東京医科大学に入学し、ゴルフ部に入部しました。勉強とスポーツを頑張りながら大学生活を楽しんでいます。 村松 孝洋(平19卒)

一浪して大学入学を果たしました。文武両道を目指して日々精進していく所存です。大学で獨協の友人と会うこともあり、会うたびに獨協生活が思い出されます。 宮島 全(平19卒)

大学では地球温暖化などの環境問題についての講義を受け、楽しい学生生活を送っています。

土井 俊弘(平20卒)

だいが大学生活に慣れてきたような感じがいたします。今はサークルと委員会と両方がんばっています。 中村 成宏(平20卒)

神田直人先生を悼む

昭和41年卒 中村 昭美

平成20年10月15日午前2時あのカメレオン先生(愛称 かめ先生)が逝去されました。享年77歳でした。あの元気で、いつも「あのあのとちょっとどもるしゃべりかたが、なんとも愛嬌があって我々の尊敬すべき先生でした。いつも生徒を中心に物事を考えていて、我々昭和35年入学時の1年1組ドイツ語クラスの出席番号順の名簿を覚えていただきました。後年クラス会では、いつも先生が名簿も見ずに有賀君から一人ひとり名前を読み上げて始まりました。先生が昨年9月下旬に精密検査でがんとの診断を受けたとの話でした。私も仲間も肺がんか胃がんを疑いましたが、腹膜にがんが点在していて手術では採りきれないとのことで、ガンマ治療を続けるとの話でした。4月ごろ暖かくなったら具合が良いときに

編集後記

巻頭には同窓会総会に引き続き開催された懇親会の模様を紹介させていただきました。また、同窓会活動の一環として今回新たに企画実施された、母校の獨協祭への参加について報告させて頂いています。同窓会が同窓生の懇親の場であることは勿論ですが、母校や学園さらには社会に対して働きかける活動も

もう一度先生を囲んでクラス会をと考えていましたが、残念ながらその機会がないまま逝去されてしまいました。先生は我慢強い方でしたので、家族にも我々にも弱さを見せなかったのではと頭が下がります。まだまだ教えていただきたいことが沢山ありましたのに本当に残念です。ご冥福をお祈りいたします。本当にご苦労様でした。



在りし日の神田先生を囲んで

重要な活動ではないかと考えます。獨協祭での展示会場へは昭和14年卒の同窓生の方もお見えで、当時の模様などのお話が伺えました。今後とも同窓会の発展のために奮って同窓会活動にご参加いただければと思います。また、獨協通信への投稿もお待ちしていますので、よろしくお祈りいたします。(竹文)